

平成 29 年の新しい年を迎えて

長崎県技術士会 会長 山口 和登

新年あけましておめでとうございます。旧年中は会員の皆様に多大なるご協力、ご支援をいただき大変感謝しております。会長として年頭の辞を述べるのも今回で 6 回目となります。毎年同じような文章となります、「継続は・・・なり」と思い直して御挨拶申し上げます。

長崎県技術士会も一昨年は設立 40 周年を祝い、機関誌も 50 号を超える、今回で 56 号を数える配信となりました。これも一種の継続です。昨年は長崎県技術士会が後援している長崎地盤研究会の創立 20 周年を祝いました。このような会を 40 年以上、20 年以上と続けることはそれに関わる人の大変な労力と協力そして支援が必要です。今後もマネリ化にならないように配慮しながら継続していきたいと思います。

長崎県技術士会の平成 29 年度の総会が 6 月に予定されています。29 年度は役員改選の年度であり、長崎県技術士会会則 16 条で「役員は会員の中から選任し総会の決議を経て決定する」とあります。役員とは会長、副会長、理事、監事、顧問ですが、このうち会長は選挙で選出することが 23 年度の総会で提案され、24 年度の総会で会長選挙要領が制定されました。選挙要領の詳細については要領等を掲載している会員名簿や県技術士会のホームページをご参照ください。27 年度は会長選挙要領に基づき、私が会長に選出されました。今年の会長選挙の詳細につきましては別途お知らせする予定です。

昨年の報告ですが、会員数の拡大については平成 24 年末が 145 名、25 年末が 150 名、26 年末が 158 名と順調に増加してきましたが、27 年、28 年と 2 年間に渡り長期会費未納者の削除等を行った結果 28 年末には 161 名の会員数と微増にとどまりました。多くの学会等が会員数の大幅減少に苦しんでいる中、微増にとどまったのは良しとしました。会員名簿については昨年 350 部の作成を行い、会員のみならず長崎県、大学等の関係機関に配布を行い、長崎県技術士会自体及び会員の知名度の向上等に毎年努めています。機関紙 APREN も定期的に年 4 回の発刊、配信を行いました。長崎地盤研究会をはじめとする関係学会、関係協会、公益財団法人長崎県建設技術研究センター（ナーク：NERC）をはじめとする関係団体の主催する技術講習会などの行事の後援やそれらの行事への講師の派遣等も実施してきました。これらに施策については今年も継続、拡充していく所存であります。また、ホームページの管理は永らくナークにお世話になってきましたが、昨年より県技術士会の独自管理としました。今後は、ホームページの更なる充実と迅速化等に努めたいと思いますので、ホームページに対するご意見、要望等をお知らせ頂ければ幸いです。

長崎大学、日本技術士会との連携強化、連携促進であります。今年はさらに具体的に進めていきたいと思います。長崎大学ですが昨年末に長崎大学工学部工学科社会環境デザイン工学コースの JABEE 認定プログラムに準じて長崎県技術士会が協力して第 2 回目の講演会を実施しました。この詳細については園田理事が報告されていますので

そちらをご参照ください。

日本技術士会との連携は、一昨年公益社団法人日本技術士会九州本部長崎県支部（毎熊元支部長）が発足し、昨年はさらに具体的な連携が強化促進され、特に研修会や見学会が充実してきました。長崎県支部の支部長をはじめとする役員はすべて長崎県技術士会の役員から成っており、また研修会や見学会はすべて県支部と県技術士会の共催としております。今年も更に日本技術士会長崎県支部とはより物心両面で連携し、県内外での活動をより活性化する所存であります。

年の初めに当たり例年の様に長崎県技術士会の状況、施策等について述べましたが、長崎県技術士会の運営につきましては役員をはじめ会員各位のご協力、ご支援が不可欠であります。よろしくお願い申し上げます。最後となりましたが今年の皆様のご健康、ご健勝、ご多幸を祈念しまして新年の御挨拶といたします。

平成28年度第2回研修会報告

広報委員 山口 昭光
(農業・長崎)

12月3日、長崎県支部第2回研修会を下記内容で開催しましたので報告します。

講演①テーマ「集約型の都市づくりを目指して」

講師：真鳥 喜博氏

(建設・総監部門、長崎県土木部都市計画課)

講演②テーマ「長崎県小さな楽園プロジェクト」

講師：梅田真由美氏

(長崎県企画振興部地域づくり推進課)

参加者 37名

講演①

・3駅周辺のまちづくり

九州新幹線西九州ルートは、平成34年度の開業に向けて整備が進められており、特に新幹線駅ができる長崎、諫早、大村の3市においては、新幹線開業の効果を最大限に活かすために駅周辺のまちづくりを進めている。

長崎市 「市民・来訪者の交流・にぎわい空間となる長崎の新たな陸の玄関口の形成」

諫早市 「往来する人々が心躍る、賑わいとおもてなし空間」

大村市 「花と緑に囲まれた駅づくり・拠点づくり」

・コンパクトシティ・プラス・ネットワーク

目指すべき方向性

①子育てしやすい、②高齢者にやさしい、③都市の集約、④人口密度の維持、⑤まちなかへの誘導、
⑥まちなかの活性化 → コンパクトシティの構築が必要

コンパクトシティの誤解

①一極集中 → 多極型(旧市町村の役場周辺などの生活拠点も含めた多極型ネットワーク)

②全ての人口の集約 → 全ての人口の集約を図るものではない(一定エリアで人口密度を維持)



講師：真鳥 喜博氏

③強制的な集約 → 誘導による集約(インセンティブを講じながら、時間をかけ集約化)

・今後の課題

都市計画のあり方について「考え方の転換」が必要である。これまで都市計画でまちづくりを進めてきたが、これからは都市計画をまちづくりを進めるためのツールとして活用すると、説明された。

講演②

・人口の将来推計

長崎県の人口は、1960 年の 176 万人をピークに、2015 年には 138 万人まで減少し、2060 年には 78 万人まで減少すると推計されている。離島人口は、1960 年の 33 万人から、2010 年には 14 万人まで減少している。年少人口（15 歳未満）は、1955 年の 65 万人をピークに 2015 年の 18 万人まで減少している。生産年齢人口（15～64 歳）は 1985 年の 104 万人をピークに 2015 年には 79 万人まで減少し、2060 年には 39 万人弱と推計されている。老人人口（65 歳以上）は、1950 年の 8 万人から、2015 年には 41 万人まで増加し、老人人口の割合は、2060 年には 41%まで上昇する。

→ ①暮らし・環境・地域社会へ影響、②結婚・子育て・教育へ影響する。

このため、行政、企業、県民が総力を結集し、人口減少対策に取り組む必要がある。

・小さな楽園プロジェクト

国土交通省の「小さな拠点づくり」を参考とし、平成 27 年 10 月「小さな楽園プロジェクト」を立ち上げた。対象は、特に人口減少・高齢化が進んでいる地域において、地元が危機感をもって主体的に「小さな拠点」づくりに取り組もうとしている地域をモデル地域として支援する。

取組例①日常生活における助け合い・支えあう事業、②基幹集落と周辺集落との間のデマンドタク

シー等の導入・運行、③移動販売車の導入による買物代行や地域の見守り対策、④廃校舎や古民家等を活用した高齢者の生きがいづくり、⑤地域資源を活用したコミュニティビジネスの振興による賑わいの場の創出 など。

・取組地域

①南島原市山口地区

廃校となった小学校区を単位とした集落において、地域おこし協力隊（廃校活用プランナー）と地元協議会との協働で廃校を拠点とした各種取組により、持続可能な集落地域の再生を目指す。（廃校外壁塗装のワークショップ、加津佐ピザづくり体験、誘致企業との連携など）



講師：梅田真由美氏

②五島市奈留地区

住民アンケートの結果、「困っていること」の第一位が「買物」。移動販売車を導入し、商店のない集落を対象に、月～金までに 1～2 回巡回販売を行い、買物が便利になっただけでなく、交流の場の創出、見守り対策につながっている。

・今後の課題

①「小さな拠点」づくりを進めるには、リーダーなどの「キーマン」が必要（地域おこし隊、外部人材も活用）

②キーマンだけでは進まない。地域住民も行政も本気で取り組むことが必要

③継続して取り組むには、収益を得ることも必

要、しかし、地域には経営に詳しい人があまりいないと説明された。



参加者全員で

長崎大学-JABEE認定プログラムへの協力

長崎県技術士会 理事 園田直志

昨年度に引き続いだ、長崎県技術士会と長崎大学の連携強化を掲げ実施している技術者育成のために「技術士」についての講義を実施しました。

長崎大学の「工学部工学科社会環境デザイン工学コース」のプログラムは、構造工学コースとともに2006年度から（一般社団法人）日本技術者教育認定機構（JABEE）から認定されています。

（1）JABEEについて

JABEEのホームページ冒頭に、
『日本技術者教育認定機構（JABEE）は、技術者教育の振興、国際的に通用する技術者の育成を目的として1999年11月19日に設立されました。当法人は、第三者機関として、大学等の高等教育機関で実施されている技術者を育成する教育プログラムが社会の要求水準を満たしているかを国際的な同等性を持つ認定基準に基づいて認定します。審査は、教育プログラムの自主性を尊重するとともに、審査を通じてプログラムが教育の改善を図

るようになっています。』とあります。

その趣旨は、IEA（国際エンジニアリング連合）のワシントン協定に基づきグローバル社会で活躍できる技術者育成を掲げて2001年度から認定を開始して2015年度までの認定プログラムは、173教育機関の494プログラムとなっています。

2000年度頃から技術士制度も国際的通用性を目標に様々な改革が行われ続けており、第一次、第二次試験の2段階試験制度の義務化に変化し、JABEE認定プログラムコース修了者は技術士第一次試験が免除されます。このコースの修了者が2008年度に技術士第二次試験に初めて合格し、それ以降認定プログラムの修了者の合格者と合格率はほぼ順調に増加しています。

2015年度の第二次試験の結果によると、合格者は2014年度と比べ49%も増加しています。また合格者の平均年齢は、全体が43.0歳であったのに対し認定プログラム修了者は30.8歳でした。今後も認定プログラム修了者がさらに増加していくことが期待されています。

一方、文科省のH28年11月の「科学・技術審議会第35回技術士分科会」の「今後の技術士制度の在り方」には、IEAを意識し、APECエンジニア、IPEA国際エンジニアのように一定年数毎にCPDの取組みを確認して再登録の制度を導入することが望ましいと報告されています。

これからの技術士資格は、国際的通用性を確保するとともに「エンジニア」を目指す技術者が取得するにふさわしい資格であるため、IEAの「専門職として身につけるべき知識・能力」を踏まえて策定された「技術士に求められる資質能力」を念頭に第二次試験の在り方も近い将来改定される予定です。

(2) 長崎県技術士会の講義

長崎県技術士会もこれからの方手技術者育成の貢献のため長崎大学工学部の「社会環境デザイン工学コース」の3年生を対象に実施した平成28年度の講義内容と経過を報告します。

1. 日時・場所：平成28年12月8日、16:00～17:40

工学部工学科講義室

2. 参加者：社会環境デザイン工学コース 22名

(1) 「技術士制度について」

講師1：長崎県技術士会会長 山口和登（約40分）

(2) 「土木技術系の公務員について」

講師2：同上 理事 清水正明（約40分）

(3) その他 (10分)

技術士会の講義は、今回が2回目でもあり学科主任の大嶺聖教授と協議した結果、公務員志望の学生も多いことから、公務員の立場からの技術士資格について長崎県OBの清水正明理事が講義2を担当しました。



講義状況1

講義1では、昨年度に引き続き、一般的な技術士制度の内容や、業界（コンサルタント等）によっては必須の資格であることを講義しました。

講義2では、公務員について、国家公務員と地方公務員の相違や土木行政の中での公務員技術者の役割などを詳細に講義していただきました。

以下に講義後に収集した学生たちのアンケートを分析したので主な項目について列記します。



講義状況2

(4) 講義後のアンケートについて

①将来の進路調査 ※ () 内数字はH25年度

コンサルタント系5(2)名、

建設業（ゼネコン）6(4)名、

公務員9(9)名、

研究（大学院）1(5)名、

その他2(2)名であった。

②技術士（名称）を以前から知っていましたか。

入学前や2年生から知っていた。—17(20)名です。

③講義の内容は理解しやすかったですか。

理解しやすかった。—17(21)名です。

④本研修会は有意義でしたか。

有意義であった。—21(21)名です。

5. 技術士資格を取得したいと思いましたか。

取得したい。—20(21)名です。

⑥技術者倫理についてもっと学びたいですか。

学びたい。—20(21)名です。

⑦技術士の方から、実践的な技術者倫理について学びたいですか。

学びたい。—20名です（新項目）。

(5) 学生からの感想・意見

①公務員が民間の企業と協議する際、技術士の資格を

持っていなければ対等な関係性を持つことは難しいと
いうこと（研究者志望）。

②長崎の公務員の仕事の具体的な内容が伝わってきて
よかったです。技術士の資格を持つことが当たり前のように
なろうとしてきているので、話を聞くことが出来てよか
った（公務員志望）。

③近年、技術者倫理を問われる問題が起きて
いる中、これから技術士には、そのような倫理と
いう観点をもう一度見直してもらいたい（ゼネコ
ン志望）。

④特に、土木技術者は、なぜ残業が山ほど多い
ですか？減らせないですか（コンサル志望）。

⑤大学の卒業で JABEE の認定があるので、技術
士試験は将来受けたいと思っている。

⑥技術士についての研修は受けたことはありま
せんが、技術士会の講演会に参加させて頂きま
した。専門的で深く濃い講演会を聞いて、技術士の
壁の高さ、知識の深さを感じました。



受講状況

（6）これからの対応について

アンケートの内容からも技術士会の講義はそれ
なりに意義のあるものとして学生たちに伝わって
いることと思います。

次年度からもこのような技術者育成のプログラ
ム（JABEE認定）に参加することは、長崎県技術
士会にとっても発展的な活動と捉えて頂ければ幸
いです。

※ 機関紙発行担当からのお知らせ

（1）名簿間違いのお詫び

前号（APREN だより 55 号）のお知らせの訂正です。

新入会員紹介

誤：藤永 哲哉 応用理学 株創建

正：永藤 哲哉 応用理学 株創建

（2）委員就任のお知らせ

佐世保市から長崎県技術士会への委員推薦依頼の「前畠弾薬庫跡地利用構想検討有識者会議委員」、
「佐世保市都市計画審議会委員」の 2 件推薦の件につき長崎県技術士会会員の松永光司理事が就任されました。
任期は 2 年間です。

（3）編集後記

新年、明けましておめでとうございます。酉年は何かと羽ばたき、躍進する年とか、証券業界の申酉騒ぐな
ど忙しい年と言われているようです。今年も長崎県技術士会の CPD 行事が計画されています。会員の皆様方の
多くの参加を期待して、今年もよろしくお願ひいたします。

※ 機関紙発行担当の連絡先 園田直志
sonoda_naoshi@icloud.com